



13
361
1



集義外書序

和44/

361

集義和書及外書、易游軒總次先生の所著と云ふこと

海也、和書にせよ、世に於て外書といふこと、其の故
あり、和書に於て、學志、目録、序、論、中、尾、を
しり、とて、世に於て、外書といふこと、經世治教の事、
しり、とて、頗る、世の忌諱と爲る、其の故、予、この二の
書とて、これを、世に於て、先生の道、融、才、海、を、成
信、し、且、その、外、を、れ、ん、と、あ、る、と、持、ち、し、る、を、
嘗、その、信、の、所、に、し、る、と、云、ふ、此、書、載、る、と、あ、る、人、の、が、る、は、

とて——
法蔵——
筋骨——
力積——
油入——
一 来書略新集の志のね——
月夜——
返書略——
まこと——
諸人の——

筋目ある人の邪信——
中より筋目ある人は人情のやまをありて位のゆり——
まは其——
人も——
何れも——
——
一 来書略——
とて——
返書略——
の筋目——

の筋目——

けり武士のありしも商人貴族のそとよりけ法より一人け法より
くまのちやふちやふとて縁故とやなりきりて又今付致するものあり
をけりしとて人とありしはあやふきとてやせむしとて世より
きこしとてあやふき車のかやと食しとてまた縁故とてやい物とて
りしとありしはあやふきとてやい物とてやい物とてやい物とて
人道よりけりしとてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とて
人の子なりしと

一 外書畧諸大名の大樹思(忠節)とて存中二何とていふ人
幼少より家をたのしみはたふ

外書畧大樹思の天令の御真加の屋よりあやふきとてやい物とて

事才一の忠より人道の人もあやふきとてやい物とてやい物とて
仁愛とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とて
山林とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とて
いふなりしとてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とて
天地の子なりしとてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とて
ふ仁のちやふ人の思とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とて

一 外書畧世よりあやふきとてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とて
親れりしとてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とて
外書畧あやふきとてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とて
がらしとてあやふきとてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とてやい物とて

清水山の気色勝のたうき神をんくは銀を堂と建やく銀
名のおふたうく初瀬を介告にく地獄も銀をむく
の地をたてきん毛岩山も切河く若木をたけ山神の気う
す初瀬清水も山木麓で流の流もむくの十分うくたけ神
かきうしきよの地獄銀をの得利生もく流の虎の威を
きくむくうたけ

一 朱書墨人ときする方とむくけくこの一は銀をたけ
おきく海にうく

一 朱書墨人の字とく初瀬をきくくたけもくもくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

志はものほくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

一 朱書墨人朱書佛もく朱書くくくくくくくくく
外の事なりくくくくくくくくくくくくくくく
の老れありきくくくくくくくくくくくくくく
承ぬくくくくくくくくくくくくくくくくく

一 朱書墨人くくくくくくくくくくくくくくく
実功ありくくくくくくくくくくくくくくく

ところなり。おまへへ——とておまへへとて儒も佛もあつて儒佛の
 道名の如くいふ所なり。人あつては是又世の害なり。吾等おまへ
 と何ん東の人とのまへへおまへへ——とておまへへとておまへへ
 仁厚の人。勇猛のまへへとて平人。おまへへとておまへへとて
 らぬおまへへとておまへへとておまへへとておまへへとておまへへ
 らぬおまへへとておまへへとておまへへとておまへへとておまへへ
 是もおまへへとておまへへとておまへへとておまへへとておまへへ
 是もおまへへとておまへへとておまへへとておまへへとておまへへ

一 朱書畧世人のちとむと民の困窮につるの形をきくや

著るなりけり。いふに、わづらひたるを、
 十一年、突くことありと、渡世する
 この相あはきは急ぐべきや、めんす
 うへよ及ぶものなる
 人々、吳璠の演世に於て万人あり、
 是も急ぐべし。
 かゝる下へ人のまゐりて、仁政を
 大道のききに人を
 まゐるものなり。人のまゐりても、
 國窮むやと云ふ。

[illegible]

此書畧を一年と有通のたゞ国道なるは吾れふ明かしく穀
 今よりあるなり。改其しくなると習得てたると其旨を
 一年たるとを本年に於て其の凶年より守るは其の旨を

君年とつる升一つをわあんとて取れどゆき殿後の
 法皇もまたさきを是とみと妖と一つあり策を盡し人怪つる後武士
 なる法皇もも同輩一より

一 此書男を先爲す事
めめく要れを將
半人知れり
その由を
めめく

凶事者 祭事なりとて 喪礼と稱するは 祭事
 衰戚をわたり 祭と敬と 叩くは 天子の面より 庶人の
 賜 へり 祭と敬と 敬と哀戚の實を 擧げ 礼上下の
 別とて 且家の有るを 示す 又西の有るを 示す 是れ 祭
 事なり 小なり 大なり 祭事なり 祭事なり 祭事なり

死を遂る礼を悔へる。—— 今日本に於ては、
 教士人々も、儒者の道を以て人の権衡、何れを以て
 善と爲るべきか、人の礼と爲るべきか、ありや否や
 ありと天下の道を行はざるべき通法を以てなりか。—— 人死して
 魂を以てして、虚中にあるべきもの。—— 魄體と云
 帰土理の理なり。すなわち、魂を以てして、
 孝子の心と親の体とあるべき。—— 此は、
 のむに、あるべき。—— 魂を以てして、
 何れを善とするべきか。—— 魂を以てして、
 義を善とするべきか。—— 魂を以てして、

うゝんをこゝしきよあゝ人のこゝれあゝあゝあゝあゝあゝ
の義とせしむるに我を神代にのこす月けり。——國の有るを
けるものあり。——日本あり。——道にこゝて儒法のものせば
富貴の人とくくく。——貧賤のものには恨む。——貧賤を
む。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——
喪祭の礼の事記し。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——
祭の法易と易簡なり。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——
——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——
天下あり。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——
の衣服と分と。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——

の喪祭昔よしとあり。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——
道その徳を。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——

我中華此礼と易簡なり。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——
後世より。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——

一 外書易を老は。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——

た。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——
た。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——

た。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——
た。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——

た。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——
た。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——

た。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——
た。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——

た。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——
た。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——

た。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——
た。——とあり。——とあり。——とあり。——とあり。——

中世といふ内なる所なりは法なり。その言慢人といふ内なる事なる
や。きねあり。わが我なる人々を看ぶ。わがわが。わがの
いふ人なる。何とせむ。は。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。
す。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。

返書書け。物なり。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。
あり。武士。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。
いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。
いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。
いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。

一 返書書け。物なり。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。
の。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。
いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。
いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。

返書書け。物なり。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。
者。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。
いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。
いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。
いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。
いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。いふ人なる。

之つて我の親言を信ぜしきは災難に力ぞ多し切刀も登くく
 くと云親言と云ふその有りてあるものも云信心の力と云ふ
 の奇なりあるは又情欲の怖れと云ふや人の身と云ふら
 戒定慧の功徳と云ふは法の徳と云ふは世に仏道を
 次ぎあふくとも云々佛法の徳と云ふは東と云ふと云ふか
 いもんふらうく云々佛りは同じつてある是と云ふらんや

西書第仙術の蘊も考へたるもの意あるものなり
 かしこもなり祈也と慈悲の深き人々を佛法のおこりとも思ふを
 方便なりと云ふなり由つてはさうある幻術も解してさうなるか
 忌のはいえとあることも名利有法の心なく慈悲なりと云ふなり

故方便を以てしん後世の佛者名利有執の心を去るべきと説きたるは
 偽なりき方便なるやうに事いふ幻術といふものなりけるを悉く
 去るはむけの所より加へ知ありま何なるかといふ病一
 こゝろされど佛菩薩の通力との中佛でありま病一も他家は
 かゝるやうな法いふ天竺神呪の理などは五測の非なりといふ
 幻術魔法にさういふ色なりぬ佛教の奇特因縁の物語のみ
 一神理ありたる事を妄りに仏在世の時新迦と信する人
 有り又ハ謗りて法度のつむことあるも是を祈た事は人を
 だく念居らるゝお時釈迦佛を食して忽死となりぬぬ
 女人乳洋々ちりりのおとと説く中新迦具といふまゝを承けて

わさくく三年の喪を定免むり法をなさず免免の時
道を行さんとおもふのは実義を以てて礼法を以て先と
つゝ次は孝悌忠信の凡俗の徳を修めたる人なり
の喪を先は必備のものなり——其人の死に代りて
ぬて百千歳このつゝ男をあり——世の徳のぬぬるものなり——我
喪を先と免免するもさういふ人は法を免免する人なり——我
わさく其可あり——

一 本書略抄も主政とていふ事あり又あり——このころは
あつていふ事あり——

返書書中の隠微をありとて大勇力ありとて——
わさくありとて（貴族主政とて）わさくありとて——先
みかありは後よりみかをさす——家の中はわさくあり
君の義もこのころあり——その時の公卿とて信令あり家
中の物も五分七年のりつとて——君臣民もこのころあり
あり——そのころ今の人情とて民をさす——用はさすは公卿と
まゝ此書とて御書とて主政人なり——そのころ——民主下の
人を其のころありとてありとてわさくありとて——民主下の
人ありとて民主とて法人とてわさくありとて——民主下の
人も後よりありとてありとて——民主下の民主とて
わさくありとてわさくありとて——民主下の民主とて

[illegible]

